



大阪府保育士会だより

# ほほえみ

令和2年  
7月1日

122号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

会長あいさつ

目に見えない感染症との闘い  
現場で頑張る  
勇士にエールを!!

大阪府保育士会会長 伊藤裕子



平素は保育士会に多大なるご理解、ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

会員の皆さま方におかれましては、この度の新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）拡散防止に大変な思いで対応されていることと察しいたします。市によって違いはありますが、緊急事態宣言により、家庭保育を余儀なくされ、保護者もテレワークを求められるなど非日常なことが起こりました。ワクチンもなく不安な中、保育現場では三密にならないよう心掛けながら特別保育の対応をする傍ら、在宅保育をされている園児、保護者への発信に今まで例のない事柄に追われた日々でもありました。

そのようなコロナ禍において、保育部会では大阪府知事に2度の要望書を提出されました。4月には、保育所と認定こども園の保育

現場における感染リスクへの危機感と家庭保育の推進を広く周知していただくことを、5月には、「マスク等衛生用品の優先的な斡旋（あつか）」「職員等のPCR検査等を優先的に受けられる環境の整備」「市町村における対応の統一と情報提供」などです。

保育現場で働く皆さま方のいのちを守るために、今後も保育部会と連携し声をあげていく次第です。目に見えない感染症との闘いはこれからも続くことでしょう。保育士会常任委員会、企画し検討しております。令和2年度の事業も、次々と中止せざるを得なくなり、残念な気もちです。今までさまざまな社会情勢や、制度改革、教育要領、保育指針の改定などの変革を乗り切ってきた保育士、保育教諭の先生方です。今あるスキルを十分に活か

し、園全体がワンチームと

なり新しい生活様式とともに頑張つていけるチャンスかと思っております。

令和2年度、保育士会は研修企画委員会、食育推進委員会、自主研修委員会を設置し、新たな常任委員会としてスタートします。

これからも、保育部会のご支援ご協力をいただきながら、会員の皆さま方の一助となるよう努めてまいりたいと思っております。ご意見、ご要望がございましたら、各市の常任委員会にお申し出下さい。今年度も年間よろしく

お願いいたします。新型コロナウイルスには十分お気をつけて、現場で頑張る勇士（皆さん）にエールを送るとともに健康を祈念いたします。

## 令和2年度 総会中止

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）拡

ただき、厚くお礼申しあげます。

大防止のため4月7日に国の緊急事態宣言が発出されたことにより、5月12日に予定しておりました令和2年度大阪府保育士会総会の開催を中止いたしました。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、総会をはじめ、予定しておりました保育士会主催研修も中止せざるを得ない状況となっております。誠に残念ではございますが、何卒ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

中止にともない、5月末に議案書などを各施設へお送りし、保育士会としては初めての書面表決を行いました。

今後の予定につきましては、状況を鑑みながら、今年度の事業計画や収支予算の見直し、補正などを適宜行つてまいりますので、今後ともご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。（事務局）

書面表決の結果、全ての議案について、賛成多数の回答をもって、ご承認いただきましたことをご報告いたします。

お忙しいところご回答い

## 令和2年度 研修事業計画

### ◇保育士等キャリアアップ研修

①【幼児教育分野】開催中止  
日程：令和2年6月  
講師：寺見陽子氏  
（神戸松蔭女子学院大学教授）

②【食育・アレルギー対応分野】開催中止  
日程：令和2年8月  
講師：小川雄二氏  
（名古屋短期大学教授）

③乳児保育分野  
日程：令和3年1月予定  
講師：大方美香氏  
（大阪総合保育大学学長）

### ◇保育士研修会

①【造形教育について】開催中止  
日程：令和2年7月  
講師：村田夕紀氏  
（「こどものアトリエ」代表）

②【テーマ未定】開催中止  
日程：令和2年9月

③テーマ未定  
日程：令和3年2月予定  
講師：未定

## アンケートから見る 新型コロナウイルス各施設での対応

国の緊急事態宣言が発出されていた5月初旬に、常任委員の皆さま方へ新型コロナウイルス感染症の各施設での対応について、アンケートを実施しました。

今回は、回答の一部を抜粋して掲載いたします。各市町村、各施設によって状況はさまざまですが、今後のご参考になれば幸いです。

### ①家庭保育をされている家庭に対して

#### 《電話連絡》

- ・担任から電話し、子どものようすや家での過ごし方、家族の体調を聞き取り、ねぎらいの言葉などをかけ、記録している。

- ・お誕生日に、お祝いメッセージを伝えている。

#### 《よい子ネットやメールでの発信》

- ・園からのお知らせ、園だよりの一部や市からの情報などを発信している。
- ・親子でできるストレスケアなどを、よい子ネットで発信している。

#### 《郵便物での発信》

- ・誕生日の園児に、カードを郵送した。

- ・似顔絵付きの手紙、返信用の用紙、返信用の封筒、絵本を各家庭に郵送した。

- ・手作りのおもちゃやマスク、自宅で作れるレシビ、担任の手書きぬり絵などを郵送した。

#### 《動画配信・SNS開設》

- ・職員が撮影した、手遊びや体操、制作キットなどの動画配信をしている。動画サイトは園独自のもので、園児の保護者にもみパワードを知らせている。

- ・絵本の読み聞かせ、わらべうたや手洗い指導、体操などの動画配信。

- ・インスタグラムを開設し、体操や季節の劇遊び、折り紙の折り方などを配信している。

絵本や歌の動画配信は「著作権」にふれないように、注意しましょう。

#### 《家庭訪問》

- ・園で制作する予定であった「こいのぼりキット」を、年齢に応じた作り方の手紙を添えて各家庭に届けた。訪問する際は、インナーホン越しで行うことや、対面の場合、距離を取らせていただくことなどを、前もって一斉メール配信で通知。また、各職員は消毒液を持って手指の消毒を徹底して行った。

- ・給食費返金

- ・昨年度の3〜5歳児を対象に、3月分の未食の給食費を返金している。可能であれば登園してもらい、短時間でさりげなく子どものようすを確認している。

### ②生活が楽しくなるようなアイデアや遊び、保育の工夫

#### 《登園児》

- ・玉入れ、砂場遊びの展開（山や川を作ったり、団子づくりなど）。

- ・戸外遊びや園の周辺の散歩を重点に行っている。

- ・白つめ草のかんむり作りなど、少人数だからこそできる遊びを取り入れている。

#### 《家庭保育児》

- ・ご家庭でできるように制作キットを持ち帰っていただいた。

- ・在宅勤務の職員が手作りしたおもちゃや布絵本、かるたなどを紹介し、次に園に来るのが楽しみになるようにした。

#### 《保育の工夫》

- ・受け入れ、お迎えは門前で、向かい合って食事をしていない。ペーパータオル、エプロンなどを使用し、おもちゃなど共有の物は全て消毒している。

- ・園内、園児、職員の消毒、手洗い、うがい、マスク着用などをできる限り行っている。

- ・職員に対して）新規採用職員は、今回のように見通しがつかない中自宅待機が長くなると、仕事に対して不安が募って離職につながる可能性があると考え、リーダーなどと相談し、体操や行事の紹介、ゲームなどを毎日午後から2回、各10分程度、グループLINEでLive配信した。

### ③気になるご家庭へのサポート

- ・他の家庭よりこまめに連絡を入れて状況の確認をしている。

- ・普段と違うようすの時は、すぐに関係機関に連絡を入れ、常に情報の共有を図っている。

- ・要保護家庭に関しては通常通り登園していただいている。

### ④その他、「意見

#### 《心がけていること》

- ・登園児に関しては、とにかく消毒すること、三密にならないように努めている。

- ・登園して来ている子どもたちだけが特別扱いにならないよう、配慮している。

- ・また事態も変わると思われるが、その時々最善の対応を考えることに集中している。まだまだいろんな対応は追いついていないが、施設長として絶対に健康でいなければならぬ

いということを感じている。

- ・感染の報告を隠す人がいるとのことなので、自粛をしていて感染することは感染した人が悪いのではないと呼びかけ、必ず報告をするように周知し、市の感染状況などの情報を知らせた。

#### 《不安なこと・悩み》

- ・預かるお子さんがいる以上完全な自粛もできず、不安が募っている。

- ・症状が分からないことや特效薬が手に入らないことが、これほど不安を増殖させるとは思ってもみなかった。

- ・自粛要請が長引くと、親子共々ストレスに苦しめられる現状があり苦慮する。日々、感染予防とストレス緩和の葛藤に悩んでいる。
- ・運動会やプール遊び、泥んこ遊びなどの行事や季節の遊びは行ってもよいのか、どこまでの範囲でできるのか今後の保育に悩む。

ご協力くださいました常任委員の皆さま、ありがとうございました。また、会員の皆さま方の施設で独自の取り組みなどがございましたら、事務局までお知らせください。

# 子どもの将来に必要なスキル①

京都大学大学院 文学研究科 准教授 森口 佑介

## Profile

福岡県出身。京都大学文学部、同大学院文学研究科修了、博士（文学）。専門は、発達心理学、発達認知神経科学。令和元年度大阪府「乳幼児家庭の教育力向上事業」推進会議座長を務め、子どもの「非認知能力」の育成に携わる。主著『自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学』講談社現代新書

## ●非認知能力

保育に携わっている皆さんであれば、「非認知能力」もしくは「非認知」という言葉は何度も聞いたことがあるでしょう。非認知能力とは、文字通り、認知以外の能力を指します。この場合の認知とは、頭のよさのようなものことで、代表的なものとしてはIQを指します。つまり、非認知能力とは、頭の良さ以外の能力を指すこととなり、範囲が非常に広いということになります。これで非認知能力がどういうものであるか、ピンとくる人はあまりいないのではないのでしょうか。

ところが、教育や保育、経済や行政に関わる人の中には、非認知能力という言葉をおぼろげに聞き覚えがあるが、よくは理解できていない、という人が少なくありません。今回は、この言葉をめぐる問題について説明していきます。

## ●ペリー就学前プロジェクト

非認知能力が注目されるようになったのは、アメリカのペリー就学前プロジェクトという幼児教育計画がきっかけです。このプロジェクトについて簡単に説明しましょう。このプロジェクトは、貧困層の子どもに幼児教育を施すことで、子どものIQを支援しようとしたものです。貧困層の子どもたちを、幼児教育プログラムを施すグループと施さないグループに分け、子どもたちがその後どのように発達するかを追跡調査したのです。その結果、プログラム直後は、プログラムを受けたグループの子どものIQは、受けていないグループの子どもよりも高かったのですが、継続的に調査を続けると、その差はすぐに消えてしまいました。

ですが、幼児教育プログラムを受けていた子どもは、受けなかった子どもよりも、中学校の時点で学校の出席率が高かったり、高校の卒業率が良かったり、大人になって、収入が高かったりするなど、幼児教育プログラムが子どもの社会的成功を促したことが示されました。

つまり、幼児教育プログラムは子どものIQには影響を与えなかったものの、それ以外のものに影響を及ぼしたと考えられ、子どもの真摯さや忍耐力などではないかと推測されました。ある経済学者がそれを「非認知能力」と呼んだのです。ここで重要なのは、幼児教育の重要性の根拠となるこのペリー就学前プロジェクトでは、非認知能力は直接調べられていないという点です。

## ●自分や他人と折り合いをつける力

これが非認知能力の始まりなので、非認知能力という言葉が何を指すかは、使う人次第のところがあります。例えば、ある人は真面目さなどのようなものを含め、例えば、別の人は自尊心に焦点をあてます。このため、非認知能力をめぐる混乱する状況が生じています。

さらに、非認知能力の重要性を語る人の中には「非認知能力は調べるのができない」という人もいます。ですが、調べることができないものを「大事な」「保育で育みなさい」と言われてもおかしな話ですよね。

こういう状況を受けて、私たちは、文部科学省国立教育政策研究所とともに、非認知能力をめぐる研究や研究などの状況を整理してきました。特に重視したのは、子どもの将来の学力、友人関係、年収、健康に重要である能力は何かという点です。その結果、「非認知能力」と呼ばれるものには、性格的なもの（外交的であるかなど）と能力的なもの（自制心など）が含まれており、性格的なものは教育や保育ではあまり変わりにくいと考えられること、能力的なものは変わりがやすいと考えられることなどが明らかになりました。

教育や保育で変わりやすい点を重視し、私たちは特に能力的なものに焦点をあてました。そうすると、子どもの将来に重要だと考えられる能力に共通するものは、「自分自身もしくは他人（家族、友人、教師など）と折り合いをつける力」であることを見出しました。ここで留意したいのは、必ずしも自分や他人と「うまくやっていく」必要はないということです。ほどほどにつきあっている力、そういう力の大きさが見出されたのです。

つまり、私たちの考えでは、「非認知能力」と呼ばれるものの本質は、自分や他人と折り合いをつける力だということです。この力を育む必要があると考えられます。

## ●おわりに

保育の対象である乳児期には、親子の絆とされるアタッチメントや自分をコントロールする力、他人を思いやる力、他人を理解する力の重要性が示されています。次回以降にこれらの能力を具体的に紹介していきます。本欄を通じて、保育の中でこれらの力をどのように育むことができるか、考えていただければと思います。



# 保育の玉手箱



担当／北大阪ブロック

今年度は新学期からの登園自粛が続き不安な毎日を送られていたのではないのでしょうか？  
そんな時にホッとしたり気持ちが楽になる絵本を探してみました。ぜひ読んでみて下さい。



## おこりたくなったらやってみて！

主婦の友社

文・絵：オーレリー・シアン・ショウ・シーヌ 訳：垣内磯子

主人公はユニコーンの子ども、ガストン。ガストンは気分によって色が変わる不思議なたてがみを持っています。

あっ、今イライラしているなあ～ 今かなしいな～と自分の感情に気づきやすいように気持ちを色や天気にならされています。子どもたちがこの本を通して自分の感情を上手に扱えるようになればと感じます。

きぶんをととのえるえほんシリーズ「かなしくなったらやってみて！」や「こわくなったらやってみて！」もご一緒にどうぞ！

## このほんよんでくれ！

クレヨンハウス

文：ベネディクト・カルボネリ 絵：ミカエル・ドゥリュリユー

訳：ほむらひろし

字の読めないオオカミに絵本を読んであげたのは一匹のウサギ。

オオカミとウサギは食べる・食べられる関係なんですけど…。

読みすすめていくうちに「どうなるんだろう」と大人もひきこまれていきます。

ウサギのよむお話に夢中になるオオカミの幸せそうな表情…こちらも

幸せな気分になります。



## オレ、カエルやめるや

マイクロマガジン社

文：デヴ・ペティ 絵：マイク・ボルト 訳：小林賢太郎

カエルがカエルをやめて、ネコになりたい？ ウサギになりたい？ ブタになりたい？…etc. カエル親子の陽気な会話で繰り広げられる物語。

自分の短所ってたくさん目につきますが、人から見た自分の長所には気が付かない…そんなお話です。

最後のカエルのつぶやきが印象的。

～誰も自然のルールにはさからえないんだね。

オレはオレ。そしてあなたはあなた。～

シリーズ本の「オレ、なんにもしたくない」「オレ、おおきくなるのいや」も楽しんでもらえれば…と思います。



## 編集後記

新学期のはじまりとともに「緊急事態宣言」が発令され、保育園はじまって以来の静かな春を迎えることになってしまいました。春の陽気に花々が咲き誇る中、子どもたちの元気な声が聞こえないのがなるとも寂しく、今まで「あたりまえ」に過ごしていた毎日のありがたさを感じました。先日知人からの手紙の中に、『コロナウイルスから人類への手紙』が同封されていました。

ヴァイアン・R・リーチさんという方が、新型コロナウイルスを擬人化して書かれたもので、このウイルス蔓延を機会に、私たちの考え方や行動を見つめ直してほしいという内容です。普通が「あたりまえ」ではなく、万物の全てに、そして今ある自分の存在に感謝し、これからの「新しい生活様式」を考えていきたいですね。

(N・R)